

平成30年度事業報告

当法人は、「思いやりの心」を育む交通安全教育を軸足として、物的・体制的活動基盤の改革充実を図りつつ事業を展開している。

平成30年度中は、「思いやりの心溢れる交通事故のない安全な社会の確立」を目指し、事業の重点を次の3点に絞り、さらに、それぞれの重点の中に3点ずつの実施目標を掲げて鋭意事業を展開した。

1 交通安全教育の更なる充実

- (1) 思いやりの心を育む交通安全教育の推進
- (2) 幼児・児童に対する交通安全教育の充実
- (3) 高齢者に対する交通安全教育の充実

2 交通安全活動の輪を広げる活動の推進

- (1) 指導者育成機関としての活動の推進
- (2) 広報啓発活動の推進
- (3) 実用性に富んだ交通安全教育器材の開発と普及促進

3 各種機関・団体との協働活動の充実

- (1) 各種機関・団体が行う活動への支援
- (2) 自治体との協働
- (3) 自動車教習所との協働

平成30年度中の活動は所期の目的を概ね達成できたものと総括し、県内の平成30年中の交通事故による死者が66名、昨年比-13名と大幅に減少したことに大いに寄与できたものと自負している。

このような、当法人の長年に亘る交通安全教育活動が交通事故防止に貢献していることに対して、警察本部長から感謝状が授与された。

また、交通安全教育指導員として長年に亘って活動している7名に、警察本部長と当法人理事長との連名による感謝状を贈呈した。

事業の重点	実施結果
1 交通安全教育の更なる充実	<p>(1) 思いやりの心を育む交通安全教育の推進</p> <p>当法人では、交通安全教育指針に基づき、「思いやりの心を育む」ことを交通安全教育の要諦に置き、参加・体験・実践型の交通安全教育を、「幼児」「児童」「高齢者」を重点対象とし、重点推進項目を</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「止まる」「見る」「待つ」の周知 ○ 「子どもと手をつなぐ」「子どもから目を離さない」の周知 ○ シートベルト・チャイルドシートの着用促進 ○ 「夜光反射材」「自発光材」の活用促進 <p>の4点として、交通安全教室の実施を前年度に引き続き 年間 1,100回 受講者14万人 を目標に取り組んだ結果、 1,203回（前年度比+52回） の交通安全教室を開催し、受講者は 142,473人（前年度比+6,711人） を数え、所期の目的を達成することができた。 平成30年度の交通安全教室の実施概要は次のとおりである。</p>

- 対象別実施状況
 重点対象とした「幼児」「児童」「高齢者」別の実施状況は、

幼 児	5 1 4 回	4 2 . 7 %	
児 童	2 5 4 回	2 1 . 1 %	
高 齢 者	1 9 7 回	1 6 . 4 %	
計	9 6 5 回	8 0 . 2 %	であった。
- 交通安全教室出動指導員数
 21人の指導員で1,203回の交通安全教室に対応し、1回当たり2.53人、延べ3,047人が従事した。

(2) 幼児・児童に対する交通安全教育の充実

交通安全教育の目標を「基本的な交通ルールを守り、安全に行動できる習慣や態度を身に付けさせる」ことにおき、また、保護者に対しては、子どもの手本となって適切な行動ができるよう交通安全教育を推進した。

具体的に推進した事業は次のとおりである。

- 交通安全モデル園事業
 3年目を迎えた本事業は、風間保育園(北信)、海瀬保育園(東信)、やまぶきこども園(中信)、鼎あかり保育園(南信)を交通安全モデル園に指定し、年間を通じて交通安全教室を開催した。3月の終了時には、施設には修了証、園児には当法人のキャラクターキーホルダーを贈った。
- ピタッとストップ大作戦
 幼児期から、道路へ出るときには必ず「止まる」ことを習慣化させるために、園内、園庭、駐車場出入口などに貼付する当法人オリジナルのストップマーク(イメージキャラクターが『ストップ』を働き掛けているもの)を無償提供した。
 また、幼・保育園から、屋外に貼るには大きいストップマークが効果的との提案があり、大判のストップマークを作成、配付した。
- 新一年生の保護者を対象とした交通安全教育
 小学1年生になる保護者を対象に、保護者が日常生活の中で模範的な行動をとり、子どもの手本となって適切な行動ができるように交通安全教育を実施し、入学までに保護者が行うべきポイントを簡潔にまとめたリーフレットを作成・配付した。
- 僕たち・私たちの交通安全宣言
 初等教育の重要性に着目し、長野県、長野県教育委員会及び長野県警察の後援を得て、児童の自主的な交通安全意識の向上を図ることを目的に平成29年度から実施している。
 平成30年度は、
 - 1 学期
 おおきなめ しんごう くるま かくにんだ
 喬木第一小学校1年 坂井 美羽さん
 - 2 学期
 自転車に のるまえ てんけん ヘルメット
 穂高西小学校4年 平林 奈々芭さん
 - 3 学期
 はしらないで おちついて 歩く

通明小学校 2年 山浦 直人さん
の目標をポスターにして県下小学校に配付した。

(3) 高齢者に対する交通安全教育の充実

当法人の高齢者に対する交通安全教育は、受講者から「分かり易く親しみやすい」と好評を得ているものの、幼児、児童に対するものと比して具体的な施策に欠けていることから、南信方面の交通安全モデル園の鼎あかり保育園の協力を得て、反射材・自発光材の活用を促すため「孫からおじいちゃん、おばあちゃんへの反射材プレゼント」事業を実施した。

本事業は、祖父母参観日の機会に、お孫さんがメッセージを添えた反射材をプレゼントし、その場で身に付けてもらい、反射材の活用促進を図ったもので、おじいちゃん、おばあちゃんはもとより関係者からも好評であった。

2 交通安全活動の輪を広げる活動の推進

(1) 指導者育成機関としての活動の推進

より安全な交通環境を形成するには、交通安全教育の裾野を広げていくことが必要不可欠であるとの考えのもと、各種機関・団体等からの要請に基づき講義等を行うなど、指導者育成機関としての活動を着実に推進した。

主な活動は次のとおりである。

- 「交通安全教育指導のポイント」を作成
継続的な交通安全教育の実効が期待できる小・中・高校の安全担当教諭へ、交通安全教育の支援としてもらうために長野県教育委員会と連携し、5項目の「交通安全教育指導のポイント」を作成・配付した。
- 交通安全教育研修会での講義
文部科学省と長野県教育委員会が主催し、小・中・高校で交通安全を担当する教員を対象とした「交通安全教育研修会」において、具体的な指導方法を演習を交えて講義した。
- 交通任用科生に対する教養
近い将来、交通警察を担当するため警察学校に入校中の交通任用科生に、交通安全教育技法の全般について教養した。

(2) 広報啓発活動の推進

当法人は交通安全教育の重要性や指導者育成機関としての活動を行っている団体であることを、幅広い分野に認知してもらうための広報活動を積極的に推進した。

主な広報活動は次のとおりである。

- ホームページのリニューアル
- しなの鉄道車内モニターを利用した交通安全教育の呼びかけ
4月1日～4月15日 9月16日～9月30日
- 篠ノ井有線放送番組“いつも心に安全を”
偶数月第4金曜日 19:40から
- 長野県警察音楽隊ふれあいコンサートにおいて広報
1月19日 伊那市

	<p>(3) 実用性に富んだ交通安全教育器材の開発と普及促進 これまでに、交通安全教育の経験が豊富な当法人の交通安全教育指導員の「現場の声」を吸い上げた、実用的で廉価な交通安全教育器材の「模擬縁石」、「シートベルト再現器」など6器材を開発し、その普及促進に努めてきた。 平成30年度は、反射材の効果を体験する「反射確認器」を開発、交通安全教育に活用している。 また、長野県警察本部では、当法人が開発した「手持ち歩行者用信号器」、「交差点信号教育盤」、「衝突実験マット」を県下全警察署に整備した。</p>
<p>3 各種機関・団体との協働活動の充実</p>	<p>(1) 各種機関・団体が行う活動への支援 交通安全活動を主たる活動とする機関・団体はもとより、各種公益事業等を行う団体とも協働の輪を広げ、安全・安心な社会実現のためにその活動を助成した。 助成した機関団体は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 直接的交通安全活動への助成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全子ども自転車長野県大会 ・ 交通事故ゼロチャレンジ事業 ・ 長野県警察交通安全教育技能コンクール ・ 関東管区内交通安全教育技能コンクール ・ 長野県警察大学生ボランティア ○ 間接的交通安全活動への助成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長野県暴力追放県民センター ・ 長野県犯罪被害者支援センター ・ 長野県みらい基金 ・ 警察官採用業務 <p>(2) 自治体等との協働 交通安全対策の主たる活動母体である地方自治体との協働体制を堅固なものとして、地方自治体が地域の実情に応じた効果的な対策を推進するための活動を行った。 主な活動は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村が開催する「交通安全大会」への積極的な参加 ○ 長野県交通安全運動推進本部顕彰表彰式への出席 ○ 季別交通安全運動出発式への参加 ○ 市及び町へ出向している長野県警察官との連携の強化 ○ 長野県交通安全対策会議公募委員として活動 ○ 安全で快適な自転車利用のための検討連絡会議構成団体 ○ 職場体験として広徳中学校の生徒3名を受け入れ <p>(3) 自動車教習所との協働 当法人と賃貸借契約を締結している5指定自動車教習所を協賛自動車教習所と位置付け、設置者及び管理者との意見交換を行った。 また、自動車教習所指導員との協働による交通安全教育活動を積極的に展開した。</p>